

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成30年1月14日	評価結果市町村受理日	平成30年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2170700468-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>決まったパターンにならないような様々なレクリエーションの取り組みとそれを基にした認知症カフェの試み。利用者の方が安全に暮らせるよう職員の委員会活動を通して、ヒヤリハット作成や日々の器具点検等を行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、より良い利用者サービスの提供と共に、働きがいのある職場環境を築きながら、開設16年目を迎えている。開設当初からの職員も多数勤務しており、今年度は、岐阜県介護育成事業者認定「グレード3」を取得しており、昨年は、外部評価の軽減措置も受けている。さらには、「キャリアパス制度」を導入し、職員の処遇改善にも取り組むなど、積極的な事業運営を行っている。職員は、日々高齢者支援の専門性を学びながら、質の高いサービスを提供し、利用者が、最期まで安心して、ホームで穏やかに暮らせるように、医療と看護、介護が連携し、家族の期待に応えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「口出さない、手を出さない、見逃がさない」を介護理念としてあげている。職員にも周知されている。	理念は、簡潔な文言で掲示し、その意義は、日々職員間で確認している。利用者が住み慣れた地域の中で、自立し、その人らしい生活を営むことができるように支援の実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校との交流(朝の挨拶運動や運動会、ふれあい交流会へのへの参加)や民生委員さんを通じて地域のボランティアにも来て頂いている。買い物などにも利用者の方に行っていたりすることがある。	地域のイベントや防災訓練に参加したり、地域の特産である柿の生産農家とのつきあいがある。隣接小学校の児童とは、日常的に交流している。また、地元の様々なボランティアが継続して訪れている。	定期的に認知症カフェを開催しているが、地域の人々との輪が、さらに広がる工夫に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェとしてひまわりカフェを開催している。地域の方々と一緒に活動し交流を深めている。まだ参加が少ないのでこれから見直す必要もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、老人会会長、民生委員、家族代表、広域連合、本巣市役所、在宅支援センターの方々をメンバーに2ヶ月に一度のペースで開催している。施設報告や運営状況、認知症カフェのアドバイス、防災時の避難方法などについてもそれぞれの分野から意見をいただいている。	運営推進会議では、外部評価軽減措置の意義と継続を報告している。また、運営の現状も報告し、地域交流の取り組みや、防災、事故、感染症対策などで意見を交換し、それらを運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の担当者がひまわりカフェに参加されたり馴染みの顔となっている。また施設サービスの取り組内容にも十分理解して頂いており協力体制は整っている。	市の担当者には、運営推進会議の場で、事業所の実情を伝えている。事故や困難事例は、その都度、報告し、助言を得るなど、協力体制ができています。市の介護相談員は、毎月訪れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体不拘束委員会にて1ヶ月に一度会議を開き検討している。不必要な拘束が無いが確認している。拘束をしない原則は周知しているが拘束以外の方法を検討し実施しても安全が確保されない場合のみ最小限の拘束をご家族の承諾を得て実施している。	法人には、身体不拘束委員会があり、毎月、会議を行い、身体拘束をしないケアについて、職員に周知、徹底させている。利用者の安全確保のため、やむを得ない場合のみ、家族の同意を得て最小限に留め、代替策を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人一人が虐待に対する理解を持ち介護をする上で心がけている。また人権啓発の外部研修などにも参加している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等家族から依頼があれば協力し医療機関への連絡を行ったり情報提供をし支援している。又制度が必要と感じる場合にも協力しスムーズに利用できるような働きかけをしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書に基づきホームで出来るサービスについて詳しく説明している。また場合によっては看取りや医療依存度の高い入居者もあり個々の状態に合わせた説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1度の家族会ではひまわりの運営や日常の様子などをDVDにまとめた物を見て頂いている。家族とはプランニング時の面接やひまわり通信での連絡等も行っている。月一度の相談員さんの来所時には利用者本人が要望を伝える事が出来ている。	介護相談員から、本人の思いを聴いたり、家族の意向は訪問時や家族会の場で聴き、それらを運営に反映させている。また、家族には、利用者の様子を映像にまとめたDVDや、ひまわり通信等で伝え、相互理解を深めているが、一部の家族に十分伝わっていないこともある。	ホームが提供しているサービスの内容が、家族に分かりやすく伝わるように、意思の疎通、対話の工夫に期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	処遇改善手当の取り組み、人事考課の見直し各種研修の実施を行っている。役職会議では運営状況の報告や施設環境の整備の必要性等も報告し検討している。	職員からの意見や提案を検討する、リーダー会議やカンファレンスの場がある。会議では、利用者支援を含め、運営全般を話し合い、職員の意見や要望を働きがいのある職場環境作りにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入し、職員の自己評価を基に昇給するシステムにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加優遇、資格試験への取り組みを支援している。法人内の研修も充実させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会へ積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を必ず行い本人確認を行っている。家族や相談員、ケアマネ等から得た情報をもとに要望を把握。グループホームでの生活が相応しいのかどうかの検討も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、要望などに耳を傾ける事によって信頼関係を築き安心して相談して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者にとって入居が最良の支援であるのかどうかを見極めるために他機関とも連絡を取り合い情報を共有する事でサービスの利用を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活や人となり等の情報収集を行う事で継続して頂ける事支援すれば出来る事を見極め自分らしさを保って頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の想いにも配慮し本人と家族との今までの生活を受け止め家族と一緒に利用者本人を支えていける様努めている。面会時には出来るだけ多くの利用者の情報を家族に提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を特別設けておらず何時でも訪問は可能である。個々の馴染みの場所や行きたい場所をご家族に連絡し働きかけ実現している。	地域住民や、利用者の馴染みの人が気軽に訪れている。職員と一緒に、図書館や神社などへ出かけたり、家族と共に、一時帰宅や外泊で、馴染みの人と出会っている。また、理美容院や喫茶店なども、馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団の生活であり気の合う人、合わない人の見極めはしている。不穏や他利用者にも影響を及ぼす等酷い場合は部屋替え等も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への移動、在宅復帰等において情報提供し移動先でもこれまでと変わらぬ介護が受けられるようにしている。包括支援センター等にも連絡をとり退去後の生活を安心して送って頂ける様働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の目標を定め月1度のモニタリングを通して介護の方法を話し合っている。	日々の関わりの中で、一人ひとりに合った話題を提供しながら、利用者が望む暮らし方や意向の把握に努めている。意思表示が困難な人は、表情やしぐさなどから汲み取り、それらを職員間で共有し、その人らしく、暮らせるよう支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集に加え、医療、介護や他部署他施設等とも連絡を取り合いこれまでの暮らしを把握し継続した介護が提供できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事は自分で行ってもらい出来ない事を手助けすると言う介護方針のもと利用者の能力を見極め介護している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開いている各棟毎の会議において利用者一人一人における課題と必要な援助を導き出し介護計画に反映させている。また計画作成時には家族の意向も確認している。	家族の意向は面会時に確認している。ケア会議で、本人のニーズについて話し合い、経過を検証し、介護計画を作成している。利用者の個性を活かしながら、自立を支え、生き生きと暮らせるよう支援計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録には客観的なデータ(食事量やバイタルサイン等)や利用者の言動や表情等を記入している。毎朝の申し送りでは変化や注意点などを全職員が把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な事を必要な時に対応し支援している。通院支援や買い物、一時帰宅時の車椅子搬送なども相談にのり対応している。また、救急搬送への対応付き添いもしている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内で行う行事に地域住民の方々に参加して頂いている。また地域の行事にも参加し交流を深めている。施設内でカフェを開催し顔なじみの方も出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の強制はしていない。ただ提携以外の受診に関してはご家族にお願いをしている。その際には情報提供を行い連絡をとっている。	かかりつけ医は、家族の希望と同意の下で、協力医に変更し、定期的な往診を受けている。専門科への受診は、家族が担い、受診結果は事業所と共有している。また、歯科診療や歯科衛生士による訪問もあり、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も現場に入り指導、協力を行っている。急変時には家族や医療機関への連絡搬送などの指示を出し協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には付き添い病院への情報提供を行っている。また入院中の様子もご家族から聞き、相談室とも連絡を取り合い早期退院に向け努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢化が進み利用者の重度化、看取りの場面も多くなってきている。家族の意向を聞き対応している。看取りの方針に関して入居時から説明させていただいている。	重度化や終末期(看取り)の指針を定め、家族に説明し、同意を得ている。段階的に家族と医師、関係者で話し合い、方針を決定し、看取り介護を行っている。職員の死生観に関する教育も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会や研修の機会を持っている。消防署の協力を得て心肺蘇生、AEDの使用方法等の研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署の立ち合いの避難訓練の実施。年2回の自主避難訓練を行い避難方法を確認している。通報訓練では自治会長をはじめ地域の方々にも協力して頂き緊急通報に登録して頂いている。	定例の災害訓練に加え、自主訓練も行い、初期消火や避難、通報等、夜間も想定して実施している。災害時の避難場所として、近くの特養ホームと協力関係を結んでいる。災害マニュアルと備蓄も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の講義を受け人格の尊重とプライバシーの保護、秘守義務についても周知している。一人一人の人格を尊重する様な介護を心がけている。	理念である「口を出さない、手を出さない、見逃さない」を基本に、接遇事項を遵守している。職員自身が表情や態度について常に意識し、利用者への言葉かけは目線を合わせて、誇りやプライバシーを損ねないよう心がけ、対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	大まかな一日の流れは決まっている。図書館へ定期的に行く等の希望を聞き入れている。施設ではあるが出来るだけ家庭に近い自分の想いで生活が出来る雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や食事時間は決まっているがその他の日課は無く自由に過ごされている。危険の無い様に穏やかな生活が送って頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品、カット、パーマ、毛染め等希望を聞き入れ対応している。化粧品の購入希望等も聞き対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっておらず食べたい物のリクエストを聞いたり季節や行事に合った食べ物を提供している。メニューによっては、塩分制限に工夫している。(汁物・煮物等)また、野菜の皮むき等の準備・お盆ふき等を一緒にし支援をしている。	献立には、好みや旬のものを採り入れ、利用者と一緒に相談しながら、家庭的な食事を提供している。食材の準備や片づけなどは、出来る人が関わっている。職員も同じ食事を摂りながら、楽しい雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や量は一人一人の利用者に合わせた食事を提供している。午前と午後にお茶の時間を設けコーヒーやお茶果物等を提供し食事以外の部分での栄養、水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは利用者個々の能力に合わせて全介助から一部介助、声かけのみ等で対応している。また毎週歯科医師と歯科衛生士の訪問があり口腔ケアにも配慮している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力や排泄のパターンを把握しトイレ誘導や介助を行っている。オムツ、紙パンツ、パットの種類等も使い分け適切な大きさの物を使用するよう心がけている。	個々の排泄パターンに応じて声かけし、トイレでの排泄を促している。おむつ用品は、その人に適した物を選択し、利用者負担の軽減につなげている。夜間は、ポータブルトイレを使用する人もあるが、さりげなく声をかけ、自立を支えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行っている。3日程排便の無い利用者や確認がとれず不確実だったり腹部の状態を観察し必要だと感じた際には下剤を内服したり座薬や浣腸で対応している。毎朝、乳製品を取っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午前中、入浴日は最低週2回として設定しているが希望があればここに対応している。全介助の特浴対象者に関しては日時を決め複数の職員で対応している。	入浴日を設定しているが、希望があれば柔軟に対応している。重度者対応の特殊浴や複数介助にて、安楽な入浴を支援している。入浴を拒む人には、タイミングを見極め、楽しく清潔感が味わえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や消灯時間は特別設けておらず見たいテレビ等も話し合っホールで見ている。居室内では自由に過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師が管理している。スタッフからの情報や観察により過剰な服薬が無いよう努めドクターに報告している。また服薬チェックを複数回行う事で服薬ミスを防止し確実な服薬に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力が生かせるような場の提供、ひまわりカフェへの参加やおやつ作り、夕飯の手伝いや園芸など日常で職員が行っている事を利用者の能力を考慮して声をかけ一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の小学校の登校の見送りは子供の元気な姿を見て元気がもらえると好評である。天気の良い日は歩いて喫茶店に出かけたり季節ごとの外出は計画を立て実施している。	毎朝、小学生の登校時の見送りが日課であり、利用者の楽しみとなっている。周辺を散歩したり、年間行事では、季節の花見や柿狩り、ドライブなどで外出している。また、家族の協力を得て、一時自宅や馴染みの場所へ出かけている。	

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されて毎日財布の中を確認されている方があったり、買い物時ご自分で会計していただく場合もある。ただし紛失の可能性もある為小額にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に手紙を書かれている方や自己管理出来る方に限って携帯電話を持たれている方もある。公衆電話は設置していない為ご家族からの電話を取り次ぐ事で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの清掃に努め室温や湿度は職員がチェックし居心地の良い空間になる様に努めている。玄関や食卓テーブルに中庭に咲いた季節の花を飾っている。	共用の間は、清潔で空調管理が行き届いている。テレビの前には、ゆったりとしたソファを配置し、壁には季節の共同作品を掲示している。随所に季節の花を飾り、窓越しに田圃や柿畑、小学校の校舎を眺めながら、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファとテレビを設置し何時でも自由に気の合った方が落ち着いて会話を楽しんだりリラックスできるスペースを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、タンス、ロッカーは備え付けてあり居室のスペースは限られている。馴染みの物を持ってきて頂き過ごしやすい空間を作って頂くようにご家族に働きかけている。又麻痺がある方や車椅子方も使いやすいよう家具の設置などを決めている。	居室には、ベッドとクローゼット、整理タンスが備え付けてある。馴染みの物やテレビなどを自由に持ち込み、それらを家族と一緒に使いやすいよう配置し、落ち着いて過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し歩行が不安定な方も安心して歩行できるようになっている。バリアフリーにもなっており車椅子方でもトイレや中庭へも行きやすいようスロープも設置している。		